

# 『ミツバチとともに』

農家になろう② 「養蜂家 角田公次」

大西暢夫・写真 農文協・編

農山漁村文化協会



緑地にはいろいろな花が咲き、その蜜をハチたちがせっせと集めています。ミツバチを飼ったらどんなに楽しいでしょう。

「蜂飼いは耳で花を見るんだ」と養蜂家・角田さん

は言います。小さいミツバチがたてる羽音をきいて、ミツバチが元気か、花がいっぱい蜜を出しているか、ミツバチ家族は大きくなっているかということまでわかってしまうそうです。それほどきちんと自然を見つめて仕事をする必要があるのですね。

ミツバチは巣箱を中心に半径2~3Km程度の範囲を飛び回ってせっせと花の蜜を集めます。花粉や花蜜がいっぱい集められれば子どももいっぱい生まれ、家族はどんどん大きくなっていきます(1匹の女王蜂は2

万匹以上の子どもを産むそうです)。養蜂家の仕事はミツバチが持ち帰った蜜をしぼるだけではありません、今どこに花が咲いているかを知り、花盛りの時期にははたらき蜂がいっぱい増えるように、子育ての時期をうまく調節してやることも大切なのだそうです。また蜜源になる植物も増やしていきます。まさにミツバチと二人三脚の仕事ですね。

巻末の解説には、一晩で巣の中のミツバチが集団でいなくなる「蜂群崩壊症候群」についても書いてありました。巣箱の中の幼虫や女王蜂は残されていて、働き蜂だけがなくなるそうです。原因はまだ特定されていませんが、角田養蜂場でも50もの群が疾走したことがあるそうで、大変な痛手だったことでしょう。

ミツバチを飼うのはそうたやすいことではなさそうだとわかりましたが、四季を通したミツバチの様子や生態の写真が美しく、すっかりミツバチにほれ込んでしまいました。

一匹のはたらき蜂が一生かけて集める蜜の量はスプーン一杯程度とか。毎朝パンにつ